

## 令和6年度 立川市立第八小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎よく考え実行する子ども</li> <li>○心豊かで思いやりのある子ども</li> <li>○心も体もたくましい子ども</li> </ul>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら考え、正しく判断し、実践する力（知）</li> <li>○いつくしむ心で、人・物・自然と関わる力（徳）</li> <li>○心身ともに健やかで、粘り強くやり抜く力（体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、「できた・わかった・また明日も学校に行きたい」という気持ちと自信をもたせる授業づくり。</li> <li>・「立川スタンダード20」に基づいた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。</li> <li>・地域の教育資源を活用した体験活動の充実。</li> </ul>

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丁寧に文章全体の構成を捉えて読み取り、自分の考えをもつ力</li> <li>○目的に応じて、自分の考えを筋道の通った文章で表現する力</li> <li>○正しい漢字や言葉、語句の構成等を理解する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容や要旨を捉えたり、文章構成をまとめたりする活動を重点的に取り組ませる。また、友達と考えを交流する時間を確保する。</li> <li>・新聞やパンフレット作り、報告文など課題について調べ、目的や意図に応じて書き分けられるようにする。</li> <li>・漢字の意味も理解させながら、書く指導を充実させる。また、読書や暗唱を通して豊かな言葉に触れ合う時間を増やし、語彙を増やしていけるようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会生活について理解し、様々な情報を適切に調べてまとめる技能</li> <li>○社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方について考え、表現する力</li> <li>○よりよい社会を考え、問題解決しようとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を、各種資料とニュースや日常生活と関連付けて考えさせることで、学習の理解を深められるようにする。</li> <li>・学習課題に即した自らの課題を見付け、調べたことをレポートや新聞等にまとめ、表現する機会を設定する。</li> <li>・導入時に、児童が「調べたい」と思うような資料提示や授業の展開を工夫し、疑問をもとに児童自ら学習課題・学習計画を立て、見通しをもてるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な計算力</li> <li>○数学的な見方・考え方を働かせ、筋道を立てて考察する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の手順を確実におさえ、一人一人の計算力を高める指導を行う。</li> <li>・個に応じて具体物を操作したり図を用いたりして、視覚的に問題場面を捉えられるようにする。</li> <li>・問題場面を式・絵・数直線・図等に表して、数量の関係を確かめて問題を解くことができるようにする。</li> <li>・習熟度に応じて前の学年の内容に戻って補充的指導を行う。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験の基本的な技能</li> <li>○理科の学習を生かして問題を解決する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の流れ(問題→仮説(予想)→観察・実験計画→結果→考察→結論)に沿って指導する。</li> <li>・各学年で、児童の発達段階・実態を踏まえながら、各学年で、理科の見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、思考・判断・表現したりできるように指導を計画的、系統的に行う。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人々と関わるよさや楽しさを知り、関わろうとする力</li> <li>○公共物や公共施設の大切さが分かり、それらを大切にしていこうとする力</li> <li>○他者意識を持ち、相手に分かりやすく伝えようとする力</li> <li>○動植物に関心を持ち、適切な方法で育てようとする力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合う活動を積極的に取り入れ、関わったり触れ合ったりすることの心地よさに気付くことができるようにする。</li> <li>・実際に公共物や公共施設を利用し、それらのよさを実感させる。また、今後も気持ちよく使用するために大切にしていきたいという気持ちをもてるようにする。</li> <li>・他学年との交流を増やし、相手に合わせて学習したことやしたことを分かりやすく伝えられるようにする。</li> <li>・動植物の観察をする際に視点をもちせたり、飼育に当たって図書室などで調べさせたりして、興味、関心をもたせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を聴き取る力を身に付けられるよう、ICT やワークシート、身体表現を取り入れながら段階的に指導内容を設定する。</li> <li>・思いや意図を表現に生かすことができるよう、「考える⇔試す」を繰り返し行う時間や場面を設定する。</li> </ul>

<p>図画 工作</p>	<p>○形や色などの造形的な視点に気付き、材料を適切に用いて、創造する力 ○自分の見方・考え方を深めながら、創造的に発想、構造、表現する力 ○つくりだす喜びを味わい、主体的に表現・鑑賞する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標に応じた適切な材料を用意し、存分に活用できる時間を確保する。</li> <li>・手や体全体の感覚を働かせる活動を通して、イメージを十分に膨らませ、創造する力を養う。</li> <li>・鑑賞や意見交換の時間を十分に確保し、自分や他者のつくりだした物のよさに気付けるようにする。</li> </ul>
<p>家庭</p>	<p>○日常生活に必要な基礎的な知識の理解を図り、それに係る技能 ○日常生活の中から問題を見いだして、課題を解決する力 ○家族また地域の一員としての自覚をもち、生活をよりよくしていこうとする態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理道具の使い方の学習や裁縫実習など、実践的・体験的な活動を取り入れる。</li> <li>・身に付けた知識を活用し、①家庭生活②調理の計画③日常着の手入れの仕方④裁縫の製作計画、⑤物や金銭の計画的な使い方等を考える活動を設定する。</li> <li>・自分の生活と関連付けて、学習したことを実生活に生かす活動を取り入れる。</li> </ul>
<p>体育</p>	<p>○跳力、瞬発力など基礎的な体力  ○学び合い、高め合う学習態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果を基に、体づくり運動や陸上運動の指導において、跳力や瞬発力が向上する運動を意図的に設定する。また、体育週間を通じて基礎的な体力の向上を図る。</li> <li>・学び合いを充実させるためにICTを活用し、動きのポイントを動画や写真で示し、児童が課題に気付き、相互に声を掛けられるようにする。</li> </ul>
<p>外国語</p>	<p>○外国語に慣れ親しむ態度 ○自分の思いや考えを相手に伝える力 ○外国語を用いたコミュニケーション能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTの発音に触れたり、授業でゲームを取り入れたりするなど、外国語に慣れ親しむ活動を増やし、語彙を増やす。</li> <li>・児童が目的意識をもつことができる目標や活動を設定し、自分の思いを伝えたり、友達の外国語を聞いたりしていく活動を通して、外国語を用いたコミュニケーションの楽しさを感じられる体験をさせる。</li> <li>・言語材料の反復練習だけでなく、伝え合う目的や必然性のある言語活動を設定することで、児童同士のコミュニケーション能力を高める。</li> </ul>